



# 学校だより ウルムス

～友達を思いやり、友達とひびき合う心～

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamariyaminami/>

平成29年5月31日

横浜市立釜利谷南小学校

校長 鈴木 秀一

## 「スポーツフェスタ」不易と流行

副校長 内海 司馬



6月号の学校だよりのこの巻頭文をまかされて、あすのスポフェスを直前に今パソコンの前にすわっています。体育館からは、低学年のダンスの曲がかかっていて運動会が近いのを知らせています。

教育界では、「不易と流行」ということばが一時はやったことがあります。「不易」いつまでもかわらないものと「流行」時代時代で新しくなっていくものです。運動会は昔からありますが、世界的に見ると、日本の運動会は独特のものようです。外国では自由参加のスポーツの競技会や球技大会などはあるようですが、みんなでいっしょに練習を積み重ねてそれを披露するというところが独特なようです。本校でも名前が「運動会」ではなく「スポーツフェスタ」となっていますが、これは自由参加という意味合いではなく児童が中心となってこのスポーツフェスタを盛り上げていくという意味のほうが強いようです。会の運営や進行などについて、スポーツフェスタの児童実行委員会が中心となってすすめています。また、会を盛り上げるために紅白それぞれ「マスコット」をつくりました。この「児童が中心となって」というあたりは、運動会の「流行」の部分であり、さらに広がっていくと思われま

す。また、「流行」とは少し違うかもしれませんが、本校では、「ソーラン節」を5、6年生がいっしょに踊ります。来年度30周年を機に法被をそろえて6年生が5年生に踊りを伝えていく本校の伝統としていきたいという教員の思いがあります。今年度も法被こそ、今まで通りですが、「下学年の児童が、5、6年生になったら自分も踊りたい」と思うようなカッコいい「ソーラン節」を発表するというこ

とはは児童の思いは同じです。「不易」ということで考えると、5、6年生が行う「騎馬戦」は、昔からありますが、運動会では、盛り上がる競技の一つです。わたしが小学生だった頃もあったと記憶しています。みんなでいろいろと作戦を立てて戦います。また、上に乗った児童だけでは決して勝つことはできません。馬として踏ん張る児童の頑張りでその騎馬が強いかが決まります。本番での一人ひとりの真剣な顔つきが「不易」となっているものではないかとも思います。

何の行事でも同じでしょうが、特に「運動会」では、児童一人ひとりが何を頑張ったかが、その児童にとっての「記憶」となって残っていくと考えます。あすの「スポーツフェスタ」子どもたちの輝く瞳をたくさん見つけたいと思います。

何の行事でも同じでしょうが、特に「運動会」では、児童一人ひとりが何を頑張ったかが、その児童にとっての「記憶」となって残っていくと考えます。あすの「スポーツフェスタ」子どもたちの輝く瞳をたくさん見つけたいと思います。

### 第1回 釜南学校運営協議会が開催されました

5月10日(水) 15時～

学校説明会でもお話しした本年度の本校学校経営方針が承諾されましたのでご報告いたします。本年度の運営協議会の委員の方を紹介します。

委員長：地田真司様 (パークタウン自治会会長)

顧問：瀧澤 慧様 (前本協議会委員長)

副委員長：根本 和夫様 (ニューライフ金沢文庫自治会会長)

委員： 宮島 馨様 (白山道町内会会長)

高橋 弘子様 (釜利谷地区主任児童委員)

日高 保代様 (白山道第一地区民生児童委員)

茶谷 知子様 (はまっ子ふれあいスクールチーフ)

泉田 由紀子様 (地域コーディネーター)

加藤 千春様 (図書ボランティア代表)

三谷 優様 (PTA会長)

栗田 智則様 (釜利谷中学校校長)

相澤 利隆様 (金沢少年補導員会長)

大尾 恵子様 (元日枝小学校校長)

鈴木 秀一 (本校校長)

事務局：内海 司馬 (副校長) 勝部 康美 (教務主任) 井上 由紀 (児童支援専任)

1年間宜しくお願いいたします。

釜南学校運営協議会終了後、第1回釜南創立30周年記念事業実行委員会が開かれました。